

Once upon a time, there was a swift Hare
who lived in the woods.

One day, he gathered the other woodland
animals and announced:

"I've never lost a race,
and I bet I can easily beat any of you.
Is there anyone among you
who can challenge me?"



"Well, I'll do it,"

A Tortoise said.

"Hahahah, no way,"

the Hare replied.

"You must be kidding. I can beat you
even if I run with my eyes closed!"

"No, my friend. Nobody knows
what happens in a race until the last
moment. You'd better not be careless."



むかし むかし、とある もりに、
とても あしの はやい
うさぎが いました。

あるとき うさぎは、もりの どうぶつたちを
あつめて いいました。

「ぼくは かけっこで まけたことが
いちども ないんだ。
きみたちにだって かんたんに かてるさ。
どうだい、だれか ぼくと
しょうぶ してみないかい？」

すると。



「それでは、わたしが やりましょう」

そう いったのは、いっぴきの かめでした。

「あはははは、まさか、じょうだんだろう！？

きみと だったら、めを つぶって
はしったって かてるさ！」

「いいえ、うさぎくん。

しょうぶは さいごまで、
なにが おこるか わかりません。
けっして ゆだんしては いけませんよ」

